



 三好不動産

【免許・登録番号・加入団体】宅地建物取引業者免許 登録番号 国土交通大臣(4)第7912号／賃貸住宅管理業者 登録番号 国土交通大臣(2)第003458号／第二種金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第35号／金融商品仲介業者 福岡財務支局長(金仲)第43号／(一社)九州不動産公正取引協議会 加入／(公社)福岡県宅地建物取引業協会 加入

発行人／株式会社三好不動産 代表取締役社長 三好 修
編集・制作／株式会社三好不動産 社長室 広報課 〒810-0054 福岡市中央区今川1-1-1 TEL:092-725-5000

発行日／2026年8月



 三好不動産

社会に貢献する 勤勉企業であるために

三好不動産は、
経営理念に定める「社会に貢献する勤勉企業」の
精神を実現していくため、
経済的責任、社会や環境への
責任を果たす努力をしてまいります。
当社のこれまでの
地域社会への貢献などのCSR活動は、
サステナビリティの重要な要素を含むものであり、
これらの活動を土台とし、
今後、より体系的なサステナビリティへの
取り組みを積極的に進めてまいります。
社員一人ひとりが、コンプライアンスと
経営理念に沿って行動し、
さまざまな活動を通じて、地域に寄り添い、
貢献できる企業であり続けたいと思っています。

企業理念

社是

感謝・感激・感動 される会社になろう

経営理念

三好不動産は、不動産業界のモデル企業として、会社の発展と社員の
幸せを実現するために、知識・技能・人格を修め、真のプロ集団を
目指し、社会に貢献する勤勉企業に挑みます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



シンボルであるゾウのマークには
「親から子へ信頼のおつきあい」という想いが
込められています。
このような時代だからこそ、家族のように想い、
家族のように寄り添う
「all for family」をビジョンに掲げ、
みなさまに、なくてはならない企業だと
評していただけることを目指して、
80年企業へ、そして100年企業へ、
前進してまいります。

all for family

次の世代に
遺したい世界

働きやすい
職場環境

ずっと
住みたくなる
地域社会

ずっと住みたくなる地域社会

地域社会への支援

「車いす送迎車を贈ろう」キャンペーンに賛同し支援(2004年～2017年)

「車いす送迎車を贈ろう」キャンペーンは、西日本新聞創刊140周年を記念し九州各県の社会福祉施設に車いす送迎車を贈る活動として2002年から贈呈数100台に達した2017年まで行われたもので、当社はこの支援に2004年より賛同し20台の車いす送迎車を寄贈しました。



車いす送迎車の前にて(2013年)



寄贈の様子(2017年)

博多祇園山笠の流(ながれ)に奉献酒を寄贈(2010年～)

博多を代表する祭り「博多祇園山笠」は、その起源には諸説ありますが、1241年博多承天寺の開祖・聖一国師が疫病を鎮めるために人々が担ぐ施餓鬼棚に乗って甘露水(祈禱水)を博多の街にまいたことが始まりと言われており、毎年7月1日～7月15日まで行われます。本支援は、当社の創立60周年記念事業のひとつとして始めたのがきっかけで、この祭りの安全と末永くこの伝統が引き継がれていくよう祈念し、西、千代、恵比須、土居、大黒、東、中洲の7つの流(ながれ)と博多祇園山笠振興本部へ2010年より奉献酒を寄贈しています。



「ヒルトン・クリスマス・トレイン」のチャリティーに参加(2012年～)

毎年ホリデーシーズンに開催している「クリスマス・トレイン」はヒルトンが日本、韓国などで推進するCSR活動(企業の社会貢献活動)の一つで、ミニチュアのヨーロッパの冬景色の街に鉄道が走る巨大模型がヒルトン福岡シーホークの館内に飾られるものです。これは、地元企業や団体からの支援によって開催されており、その支援金は児童養護施設「福岡子供の家」(福岡市早良区)に寄附されています。当社はこの活動に賛同し、2012年より参加しています。



ヒルトン福岡シーホーク館内に飾られたジオラマ。当社は気球にロゴをあしらいました。(2019年)

福岡市漁業協同組合が誇るブランド牡蠣「唐泊恵比須かき」を購入支援(2020年3月～)

2020年3月、新型コロナウイルス感染拡大を受け、福岡の冬の風物詩としてにぎわう牡蠣小屋も影響を受けました。そこで、カキを食べて福岡を支援する「唐泊恵比須牡蠣の出張販売」を当社本社駐車場にて福岡市漁業協同組合のご協力のもと実施しました。また、この取り組みは福利厚生の一環で、従業員が牡蠣を購入した場合、会社から代金の半額を補助するというものです。2021年の出張販売では、従業員65名・総量約180キロの牡蠣を購入しました。今後も地域経済の活性化のお役に立てるよう支援いたします。



当社本社駐車場で行った唐泊恵比須牡蠣の出張販売(2021年3月)

「タオル帽子を贈ろうキャンペーン」に賛同し支援(2018年～2019年)

「タオル帽子を贈ろうキャンペーン」は、がん患者支援に役立ててもらおうと、抗がん剤治療で脱毛した頭部を保護する「タオル帽子」を寄贈するもので、西日本新聞エリアセンター連合会が2016年に立ち上げました。当社はこの取り組みに賛同し2018年～2019年に支援。タオル帽子は福岡県内のボランティアグループ・個人が製作、その製作に必要なタオルと助成金を寄附させていただきました。これまで約30施設の病院に約1200個のタオル帽子を寄贈しました。



九州大学病院で行われた贈呈式(2018年7月3日)

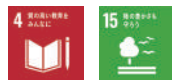


タオル帽子を製作するボランティアの皆さん



製作者からのメッセージも添えられています

ずっと住みたくなる地域社会



福岡市動物園の動物サポーターとして支援(2014年～)



動物のエサ代を寄贈(2014年)

当社のロゴマークがゾウというご縁もあり、福岡市動物園にいたアジアゾウはな子(1971年～2017年)を中心に応援しようと動物サポーターとして支援を始めたのがきっかけです。福岡市に住む子どもたちに人気の福岡市動物園の支援を通して、動物や自然を身近に感じていただくためのお手伝いを、今後も継続してまいります。



園内憩いスペースにテントを寄贈(2014年)



はな子(アジアゾウ)運動場の土を耕す耕うん機を寄贈(2015年)



はな子(アジアゾウ)に特製のごはん箱を寄贈(2016年)



福岡市動物園にゾウ飼育用運搬機3台を寄贈(2025年4月)

福岡市動物園のゾウの飼育エリアで使用する運搬機3台を寄贈、2025年4月26日に同園のオスゾウ舎前で寄贈式を執行了しました。2025年7月にミャンマーからやってきたアジアゾウ3頭の飼育場がその故郷の環境を再現した広さ3,000㎡、高低差13mの丘であることから、飼育作業効率化のため同園から運搬機の要望があり、そのご意向にこたえ寄贈しました。



運搬機寄贈式目録贈呈
(右:福岡市動物園川越浩平園長、左:三好不動産 代表取締役副社長 三好孝一)



オスゾウの「あお」くん



寄贈した運搬機



福岡市動物園にエサを計るはかりとスイカを寄贈(2026年4月)

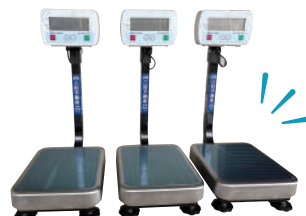


はかりとスイカ寄贈式目録進呈



アジアゾウの わかば(左) ゆずは(右)

福岡市動物園のゾウのエサを計量するはかり3台と、スイカ3玉を寄贈。その寄贈式を2026年4月11日に同園オスゾウ舎前で行いました。



エサを計るはかり3台を寄贈

なぜ、はかりを寄贈したのか？

飼育員さんから「最近、ゾウたちが少し太ってきて……」という相談をいただいたのがきっかけです。これまでは目分量だったエサを、はかりを使って一頭一頭に合わせ、食事管理をしたいとのことで3台寄贈しました。寄贈式には、三好不動産の社員とそのご家族の総勢52名が参加しました。晴天に恵まれた空の下、寄贈したはかりを使って大きなスイカの重さを量り、そのままゾウさんが実食！豪快に足でスイカを割って一気に完食していました。珍しいその光景に、子どもたちもその様子をずっと見入っていました。これからもall for familyでゾウの健康な未来を温かく応援してまいります。



「飲食店応援プロジェクト」を立ち上げ、地元飲食店を支援(2020年5月)

緊急事態宣言発出に伴い、多くの飲食店が営業制限を強いられていました。そこで、私たちが少しでも力になればと、当社と関わりのある地元飲食店を利用し、弁当一括注文(社内でのりとめ)や、テイクアウト(または店内飲食)をして支援をする「飲食店応援プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトは、会社から従業員一人あたり1回につき500円の補助金を支給、月に8回まで利用可能というもので、福利厚生の一環として実施しました。対象の飲食店は当社の各拠点があるエリアを中心に約156店で、2020年5月から2か月間に渡り約240万円分を利用しました。今後も、街の活性化の持続のために、地域とともに助け合い協力してまいります。



NPO法人いるかを通じ子どもたちへマスクを寄贈(2020年5月)

2020年5月、学童保育施設等を運営しているNPO法人いるか(福岡市西区上山門1丁目3-27)に、三好不動産グループの社員より寄附があったマスク約700枚を寄贈しました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療現場だけではなく、学童保育施設や介護施設でもマスクが不足している状況で、小学校や学童保育に通う子どもたちはマスクが手に入らず、キッチンペーパーで作ったマスクをつけて登校している子どもたちもいると知り、この度の寄贈となりました。今後も未来を担う子どもたちの支援となる活動を継続してまいります。

※NPO法人いるかは、子どもや高齢者、障がい者の福祉向上と地域社会の活性化につながる活動をしている団体です。



ずっと住みたくなる地域社会

8 福岡市中央区 三好不動産 11 福岡市中央区 三好不動産 伝統の福岡屋台を支援(2020年4月)

2020年4月7日の緊急事態宣言(1回目)を受け、福岡伝統の屋台も例外なく営業自粛となりその日から灯りが消えました。その約2週間後の4月20日、福岡市移動飲食業組合の店主らが解除後の再開・継続を目指し資金を募るクラウドファンディング「SAVE THE YATAI」プロジェクトを立ち上げたことを知り、当社はこの活動に賛同し支援をしました。その後、福岡市移動飲食業組合と情報交換し、「福岡屋台37軒で使える食事券」を同組合の発行のもと、食事券のデザインはオリジナルで制作させていただき、グループ会社も含め1,000円の食事券を約1,600枚発行し組合へ当社より直接寄附をさせていただきました。この食事券を通じて福岡屋台へ足を運んでいただき、福岡伝統の文化を守り街づくりに繋がることを願い、皆様と共に応援してまいります。



三好不動産オリジナルの福岡屋台37軒で使えるお食事券
(発行:福岡市移動飲食業組合)

福岡屋台×三好不動産コラボTシャツを寄贈



福岡市移動飲食業組合の打合せの場として
三好不動産天神サロンのスペースを提供

11 福岡市中央区 三好不動産 長浜屋台街復活を支援(2023年6月)

2023年6月、福岡の長浜屋台街が復活し7軒の屋台がオープンしました。博多ラーメン発祥の地として知られる長浜は、戦後、近隣の魚市場のセリに参加する魚商さんの腹ごしらえの為に、早朝夜明け前より1軒の屋台を出店したのが始まりです。これがいつも行列ができるほどの大人気だったそうです。魚商の方からも、この行列をなんとか改善してほしいと要望があり、店主はラーメンの麺を細くし、茹で上がりを短縮することを思いつき、これでお客の回転率が上がり行列が少なくなったということです。このエピソードが、全国的に有名な「博多のラーメンがそうめんのように細い理由」と言われています。その後、屋台も20軒近くに増え賑わいを見せていましたが、時が経つにつれその数が減少し2軒を残すのみとなり、一時は長浜屋台消滅の危機さえ囁かれたこともありました。しかし、2022年、福岡市の公募により新たに7軒の屋台が誕生することになり、合計9軒の長浜屋台街が2023年6月に復活しました。当社は、福岡の伝統文化を守り街づくりにつながることを願い、長浜屋台街の復活の告知チラシの制作に協賛し、長浜屋台街の誕生を応援しました。2023年6月5日より福岡市鮮魚市場前(元祖長浜屋台対面)に屋台が並んでいます。長浜屋台街の先にある港は、当社CM「三好さん、たのんだよ篇」にでてくる、当社の不動産管理業発祥の地でもあります。是非、長浜屋台街へ足を運んでいただき応援よろしくお願いします。



三好不動産
公式YouTube
テレビCM
「三好さん、たのんだよ篇」

3 福岡市中央区 三好不動産 11 福岡市中央区 三好不動産 地元小中学校へ消毒用アルコールを寄贈(2020年6月)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染予防のための消毒用アルコールが教育現場でも不足している状況を知り、当社とご縁のある地元の当仁小学校、梅林中学校、那珂中学校に寄贈いたしました。生徒の皆さんや先生方が安心して学校生活が送れるよう、今後もご要望に応じて支援してまいります。



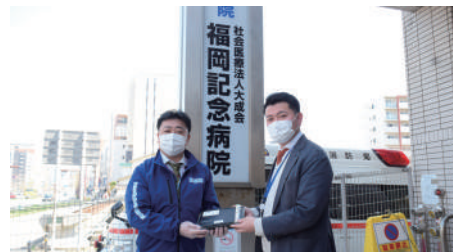
「夢授業」の講師として招いていただいた梅林中学校へ
消毒用アルコールを寄贈(2020.6.8)



「生き方学習」の講師として招いていただいた那珂中学校へ
消毒用アルコールを寄贈(2020.6.10)

11 福岡市中央区 三好不動産 福岡記念病院 医療従事者の皆様へ お弁当をお届け(2021年3月)

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、その治療や医療の確保、検査の対応にあたる医療従事者の皆様に感謝の意を込めてお弁当40食をお届けいたしました。



11 福岡市中央区 三好不動産 エール! FUKUOKA 支援プロジェクトに参加(2020年4月~2023年)

福岡地域戦略推進協議会(Fukuoka D.C.)が立ち上げた、Afterコロナの世界が真に豊かであるために新しい価値を創造し輝かしい未来に向けて前進する人たちを応援するプロジェクト「エール! FUKUOKA」に賛同しています。本会員団体それぞれが「withコロナ」時代を克服するためのアイデアやソリューションを駆使し、新たな社会・経済のあり方を考え一丸となって実線する取り組みです。

※Fukuoka D.C.は、福岡の新しい将来像を描き、地域の国際競争力を強化するために成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体のシンク&ドゥタンクです。

三好不動産エール! FUKUOKA アクション /

zoomでFridayOvation

飲食店応援プロジェクト

マイホーム購入者を応援する「感謝割」キャンペーンを実施

入居者を応援する「スマ特2020」キャンペーンを実施

NPO法人いるかへマスク寄贈

3 福岡市中央区 三好不動産 11 福岡市中央区 三好不動産 福岡県「新型コロナウイルス感染防止宣言」実施店として 各拠点にステッカーを掲示(2021年3月~2023年4月)

福岡県が認定する「新型コロナウイルス感染防止宣言」実施店として、当社の20拠点到ステッカーを掲示しています。お客様が安心してご利用できるよう感染防止対策に最大限努めてまいります。

[2023年4月終了※福岡県HPより]



スマイルプラザ九大学研都市駅前店
申請番号: CMbXmyxH-043476

ずっと住みたくなる地域社会

東日本大震災の復興支援

東日本大震災の被災地と、その影響を受けた関東在住のオーナーの皆様に支援物資を送付(2011年3月)

東日本大震災直後の2011年3月14日、被災地に、現地では手に入りにくいと言われていた毛布(100枚)、紙おむつ(350箱)、ペットボトルの水(600ケース)をお送りしました。また、東日本大震災の影響を受けた関東在住のオーナーの皆様にお米や乾電池、水などの日用品を中心にお送りしました。



「公益財団法人みちのく未来基金」へ寄附(2013年～2021年)

公益財団法人みちのく未来基金は、東日本大震災において被災し、両親またはどちらかの親を亡くされた子ども達の進学を支援するため、カゴメ(株)・カルビー(株)・ロート製薬(株)の3社が発起企業となり、2011年12月1日に設立されました。この基金は、返済不要の奨学金で、入学金・授業料を全額支援、震災時に0歳だった子どもが大学院を卒業する頃までの少なくとも25年間は継続するというものです。「真に復興の礎となるのは、これから育つ次世代の若者たちである」というみちのく未来基金の趣旨に当社も賛同し、2013年から2021年までの9年間支援しました。



寄附金の目録を贈呈(2013年 みちのく未来基金事務所にて)



「8期生の集い」参加した奨学生と企業サポーター(2019年3月7日)

募金活動

オーナーチャリティーゴルフコンペを開催

オーナーチャリティーゴルフコンペでは、参加いただいたオーナーの皆様の善意を「公益財団法人みちのく未来基金」へお届けしました。



チャリティーゴルフコンペ参加者の集合写真



東日本大震災の被災地3県(福島県・宮城県・岩手県)に義捐金を寄附(2011年8月)

当社の管理オーナーの皆様はじめ各方面よりお預かりした義捐金を、福島県、宮城県、岩手県を訪問し直接お届けしました。



福島県に訪問し義捐金の目録をお渡ししました



宮城県に訪問し義捐金の目録をお渡ししました



岩手県に訪問し義捐金の目録をお渡ししました

平成24年九州北部豪雨の復興支援



福岡県豪雨災害義援金をお送りしました。(2012年9月)

平成28年熊本地震の復興支援

「熊本文化財復興支援金」へ寄附(2015年12月)

熊本地震の影響で熊本城が大きな被害を受けました。熊本城は熊本の象徴でもあり、築城400年余りの長い歴史をもつ重要な文化財です。永きに渡り守り続けるために役立てていただければと、熊本城の復旧・復興の支援金を寄附しました。



提供:熊本城総合事務所「五階屋根の取り外し前(熊本市役所14階より2018.1.19撮影)」

熊本地震の被害に遭われた被災者の方々に当社管理物件の空き室を無償提供(2016年4月)

熊本地震の被害に遭われた被災者の方々へ、福岡都市圏及びその近郊にある当社管理物件の空き室を無償提供いたしました。



ずっと住みたくなる地域社会

熊本地震直後に熊本県・大分県在住のオーナーの皆様へ 支援物資を送付(2016年4月)

熊本地震の影響を受けた熊本県・大分県在住のオーナーの皆様へ、ペットボトルの水や缶詰、レトルトカレーなど食料品、マスク・軍手・ウェットティッシュ・紙皿などの日用品をお届けしました。



平成30年7月豪雨(西日本豪雨)災害支援

平成30年7月豪雨(西日本豪雨) 災害支援(2018年7~8月)

- 平成30年7月豪雨で特に被害の大きかった地域にお住まいのオーナーの皆様へ、飲料水や保存食など物資をお送りしました。
- 平成30年7月豪雨の影響を受けた岡山県の不動産会社(全国賃貸住宅経営者協会連合会会員)より要請を受け、岡山県のみなし仮設賃貸借契約など契約手続き事務業務を現地に赴きお手伝いしました。



令和6年能登半島地震の災害支援

令和6年能登半島地震の 災害義援金を石川県へ寄附(2024年3月)

当社の管理オーナーの皆様よりお寄せいただいた義援金を、三好不動産からのものと合わせ2024年3月4日に石川県庁へ直接訪問しお届けしました。



2024年3月4日石川県庁にて(右:石川県 馳 浩石川県知事)

令和6年能登半島地震・豪雨 復興支援の取り組み(2025年4月~)

当グループでは、2024年に発生した「能登半島地震」および「能登半島豪雨」の被災地支援として、2025年4月より継続して石川県庁へ寄付金目録をお届けしています。2026年4月22日には、当社取締役の伊瀬知が同県庁を訪れ、寄付金の目録をお渡ししました。石川県庁の担当者の方より「遠い福岡から何回も支援をいただき、本当に感謝しています」とお言葉をいただきました。今回の訪問では、発災当時の緊迫した状況について改めてお聞きしたほか、公費解体によりご自宅が更地となった方や、自宅を離れて施設での暮らしを余儀なくされている方々の状況など、今なお続く厳しい実情についてもお伺いしました。当社はこれからも福岡の地から、被災地の皆様に寄り添った息の長い支援を続けてまいります。



2026年4月22日石川県庁にて
(左:石川県 出納室課長 基村様、右:三好不動産伊瀬知取締役)

募金活動

チャリティーウォーク「三好不動産GOGOハイク」を開催(2006年~)

当社創立55周年記念行事の一環としてスタートしたGOGOハイクは、舞鶴公園を出発し海の中道を折り返し、当社本社にゴールする40kmを歩くナイトウォークイベントです。2006年より毎年開催している本イベントは、東日本大震災(2011年)をきっかけに参加費の一部やチェックポイントに募金箱を設置するなどチャリティーとして実施しています。その義捐金は、災害復興などその時々への社会への貢献に役立てていただけるよう寄附をしています。



GOGOハイク開会式の様子(2018年)

高齢化社会への対応

熊本北合志警察署と「高齢者の見守り活動に関する協定」を締結 (2020年7月)

2020年7月29日、当社グループ会社の(株)サンコーライフサポート(熊本県合志市)が熊本北合志警察署と「高齢者の見守り活動に関する協定」を締結しました。本協定は(株)三好不動産と(株)サンコーライフサポートが設立した、特例子会社(株)ぞうさんのはなが行う高齢者世帯等への生活支援事業のひとつである弁当宅配サービスにおいて、高齢者見守り・安否確認・犯罪防止等の手助けになっていることが認められたことによるものです。



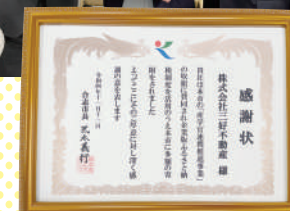
熊本県合志市 企業型ふるさと納税に寄附(2018年)

熊本県合志市が取り組む地方創生プロジェクトに賛同し、同市の企業版ふるさと納税に寄附をしました。企業版ふるさと納税とは、正式名称を「地方創生応援税制」といい、自治体を実施する「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」に企業が寄附をするというものです。当社のグループ会社で介護事業・保育事業・障がい者雇用・総合支援事業等を行う(株)サンコーライフサポートが熊本県合志市を拠点に展開しているご縁もあり、この度の支援となりました。



右:熊本県合志市荒木義行市長

熊本県合志市が取り組む「産学官 連携推進事業」に関する企業型 ふるさと納税に寄附をしました (2022年11月)



ずっと住みたくなる地域社会

11 熊本市合志市と福祉事業を中心とした連携協定を締結(2020年6月)

熊本市合志市と当社は2020年に高齢者や障がい者、子育て世帯などが暮らしやすい住環境の実現を目指す連携協定を締結しました。当社のグループ会社(株)サンコーライフサポートが介護事業・保育事業・障がい者雇用・総合支援事業等を同市で展開していることもあり、熊本市合志市における福祉や空き家など様々な問題を包括的にサポートするものです。合志市は「健康幸福都市合志市」を掲げ、この連携協定をきっかけに、行政、民間、市民が連携し独自のネットワーク「合志モデル」の構築を目指しています。



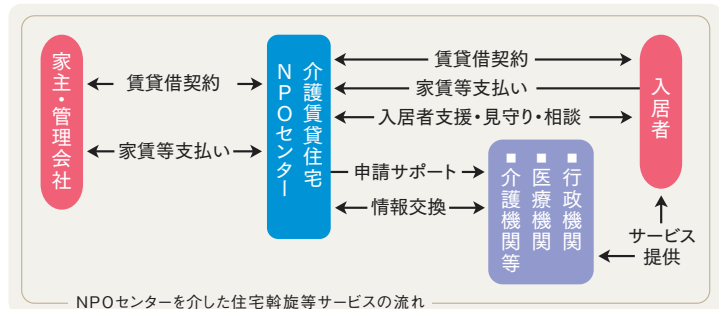
左:熊本市合志市荒木義行市長(2020.06.11)

10 福岡県指定居住支援法人の登録 ■(株)三好不動産(2018年10月) ■(特非)介護賃貸住宅NPOセンター(2019年9月)

2017年10月25日に施行された住宅セーフティネット法の改正に伴い、住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅として登録された住宅(セーフティネット住宅)の入居者への家賃債務保証、住宅に係る情報提供・相談、生活相談・支援などを行う法人を、都道府県が指定できるようになりました。福岡県においても、住宅確保要配慮者の居住の安定確保を図るため、居住支援法人の指定を行っており、三好不動産は2018年10月に、当社関連法人介護賃貸住宅NPOセンターは2019年9月に居住支援法人に認定されました。今後も福岡県居住支援協議会と情報共有などの連携に努め、住宅セーフティネットの充実を図ってまいります。

10 特定非営利活動法人 介護賃貸住宅NPOセンター設立(2001年2月)

(特非)介護賃貸住宅NPOセンターは、身寄りがない・高齢であるなどの理由で、一般の賃貸住宅へ入居できない高齢者の方に、空室で悩む不動産オーナーとの間にたち入居を支援することを目的として設立しました。安否確認等の見守りとして、乳製品を定期的に配達するといった条件で入居後のサポートを行うのは当NPOセンターの大きな特徴の一つです。



NPOセンターの前で利用者の方々と(2012年)



NPOセンター外観(2023年)

NPOセンタースタッフ(2023年)

NPOセンターでは乳製品を定期的に配達、届ける際に声掛けをし安否確認をしています。これは入居後の見守りサポートの一環です。



8 10 特例子会社「ぞうさんのはな」設立(2013年10月)(熊本市合志市)

三好不動産とグループ会社の(株)サンコーライフサポートは、2013年10月、障がい者雇用を目的とする特例子会社「ぞうさんのはな」を熊本市合志市に設立し、高齢者世帯等を対象にした弁当の調理・宅配事業を行っています。弁当は昼食・夕食分を届け、必ず手渡しするため「地域の見守り」としての役割も担っています。本事業は、2013年8月に「合志市まちづくり事業提案制度」の認定を受けました。



「ぞうさんのはな」開所式(2013年10月)



「ぞうさんのはな」のスタッフ 写真提供:熊本日日新聞社(2013年10月)



「ぞうさんのはな」のスタッフ(2021年6月)

特例子会社とは

「障害者の雇用の促進等に関する法律」で定められ、障がい者の雇用に特別に配慮して、企業の中に雇用率制度の特例措置として設立される子会社のことです。この子会社は一定の要件を満たしている場合、その子会社に雇用されている労働者も親会社に雇用されているものとみなされ、親会社の障がい者雇用率に算入されます。

3 11 子ども食堂「サンsun♪」を開設(2017年~2022年)(熊本市合志市)

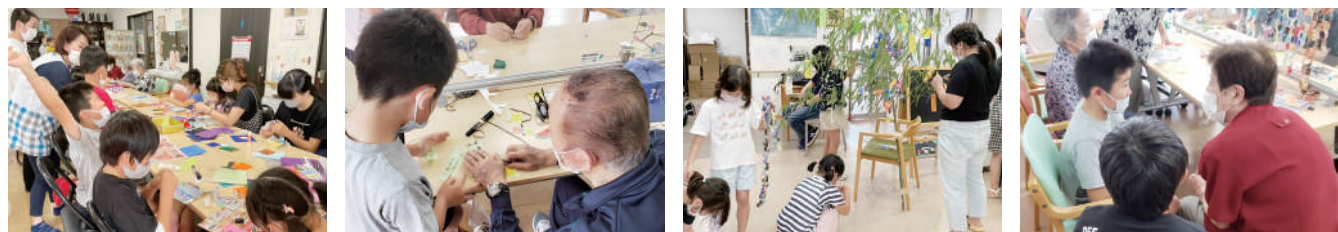
熊本市合志市で介護事業を展開するグループ会社(株)サンコーライフサポートが運営するサービス付き高齢者向け住宅「スリースマイル秋桜」内に「子ども食堂サンsun♪」を開設しました。子ども食堂サンsun♪の特徴は、地域のコミュニティスペースとしてはもちろんのこと、スリースマイル秋桜の入居者の方やデイサービスの利用者など、多世代との交流を図れる場としての役割も果たしています。子ども食堂を利用する子どもたちには、専用畑で食材に使う野菜の収穫や、食事の配膳の手伝いなども体験でき、人の役に立つことの大切さや食事をいただけることの喜びを感じてもらえるよう工夫を凝らしています。また、親御様には子ども食堂を利用して、時には家事の手を休めて欲しいという思いもあり、気軽に利用できる食堂として、地域の皆様の居場所になることを目指しています。



ずっと住みたくなる地域社会

子ども食堂「サンsun♪」を誰でも利用できる みんな食堂「サンsun♪」に名称を改め開設(2022年～)(熊本県合志市)

当社グループ会社で、熊本県合志市で介護事業を展開するサンコーライフサポートが運営するサービス付き高齢者向け住宅「スリースマイル秋桜」内に「子ども食堂サンsun♪」を2017年に開設しました。その後、運営していく中で、子どもだけではなく高齢者や障害の方、ひきこもりの方もどなたでも参加できる地域に開かれた食堂にしていきたいと思い、「みんな食堂」と名称を改めて2022年6月に開設しました。今後も、多くの地域の皆さんが気軽に集える場所として利用していただけるよう取り組んでまいります。



企業主導型保育園 「ぞうさんのはな保育園」を 熊本県合志市に開園(2018年9月)

企業主導型保育園「ぞうさんのはな保育園」を2018年9月、熊本県合志市に開園しました。働くお父さん・お母さんが安心して預けられる保育園を目指し、「幼老共生」を柱に地域の方々にも利用できる「街づくりをする保育園」を目指しています。



英語教師による英会話レッスン(0歳児から年長児)

ぞうさんのはな保育園ならではの取り組み

幼老共生

近隣の関連施設(元気な家ひまわり・スリースマイル秋桜)の高齢者の方や近隣の方とのふれあいを大切にしています。交流を行う事で、互いに豊かな関係を持つことができます。



英語保育

安心できる環境の中で週2回、0歳児から年長児まで英語講師による英会話レッスンがあります。歌ったり、制作をしたり、絵本を見たり、自然な形で英語に慣れ親しんでいます。



自園調理

管理栄養士による栄養バランスのよい献立を元に自園調理室にて、栄養士・調理師が毎日の給食・おやつを提供しています。



心音セラピー

NLP認定資格取得セラピストによる母と子の心音セラピーを行っています。お母さんの心音がお子さんとの絆をより深くします。



社会福祉法人三幸を熊本県合志市に設立(2021年9月)

当社グループ会社の(株)サンコーライフサポートが、障害福祉サービス事業を行うことを目的に社会福祉法人三幸(熊本県合志市)を設立しました。多様な福祉サービスがその利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援してまいります。

一般社団法人 合志市居住支援協議会発足(2020年10月) 当社グループ会社(株)サンコーライフサポートが構成団体として活動開始

2020年10月、合志市・(株)こうしみらい研究所・合志市社会福祉協議会、そして当社グループ会社の(株)サンコーライフサポートが構成団体となる「合志市居住支援協議会」が発足しました。居住支援協議会は低額所得者、高齢者、障がい者、子育て世帯、被災者など住宅の確保に特に配慮を要するもの(住宅確保要配慮者)が民間賃貸住宅に円滑に入居できるように推進する組織です。[住宅セーフティネット法]合志市居住支援協議会は、「住まい」の課題解決に加え「住まい方」の課題解決に向け取り組んでいます。



「合志市居住支援協議会設立総会」(2020年11月5日)

主な居住支援 サービス内容

住まいの総合相談事業

空き家、住居に関する総合的な相談。

安定居住促進業務

共同住宅や戸建等の空き家を利活用し必要な方に安定的な住まいの供給。

空き家対策支援業務

施設入居等に伴う空き家や既に空き家になっている戸建の利活用を行い住環境の整備・支援。

拠点相談受付業務

誰でも利用できる「みんなの居場所」を開設し「住まい」に関する相談の受け付け。

見守り生活支援事業

孤独死を予防するための見守りの強化。

認知症予防事業

認知症予防に関することや縁側事業などの居場所づくり。

終活支援業務

成年後見(任意)制度、相続、遺品整理に関する相談、また死後事務の委任等。

熊本県合志市に就労継続支援A型事業所 「YORISOI(よりそい)」開所(2021年12月)

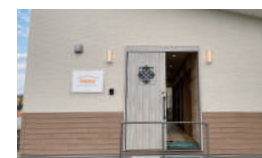
障がいのある方が一般企業で働くことを目指す就労支援施設「YORISOI(よりそい)」を2021年熊本県合志市に開所しました。本施設は、当社の関連会社(株)サンコーライフサポートが設立した社会福祉法人三幸が運営します。サンコーライフサポートは2013年同市に障がい者雇用を目的とする特例子会社「ぞうさんのはな」を設立、高齢者世帯等を対象に弁当の調理・宅配事業等を行う中、ここで働く方の中に一般就労に向け段階的なサポートが必要な方もいたことから「就労継続支援A型事業所 YORISOI」の開所となりました。一般企業で働くことを目指す全世代の障がいのある方が、必要なスキルを身につけるだけでなく、分からないことや不安なことを相談できるのも大きな特徴の一つです。ひとりひとりの目標に寄り添い、活躍できるよう実習や職業探しを通して適正な職場への就労につながるようサポートしてまいります。

対象となる方

- 18歳以上65歳未満(原則)の障害者手帳をお持ちの方
- 自立支援医療制度をご利用の方
- 定期通院をされている方

YORISOIでの主な仕事

高齢者施設の食堂、食品製造、事務作業、農作業・加工、食品や農産物の販売、賃貸住宅や施設の清掃、マンガ本の仕分け、他。



ずっと住みたくなる地域社会

ひぎんSDGs私募債発行記念品贈呈式(2021年12月) (場所:熊本県ひのくに高等支援学校)

当社は、2021年9月に「ひぎんSDGs私募債」を発行しました。その0.2%相当額分をSDGsの主要課題である未来を担う子ども達の教育支援の観点から、「熊本県ひのくに高等支援学校」を寄付先に指定し書籍を寄贈しました。その寄贈式が2021年12月21日に当校でとり行われました。書籍は、ひのくに高等支援学校の生徒の皆さんや先生方から要望をいただいた新刊や専門図書など128冊です。図書室に話題の新しい本が入ったことで、読書を楽しむ生徒の皆さんが増えたそうです。今後も当社は、事業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献してまいります。

※ひぎんSDGs私募債は、私募債を発行した企業が指定する団体や学校に対して、肥後銀行が寄附を行い、地域の企業と銀行が一体となって熊本の持続可能な社会づくりに貢献することを目的としています。

熊本県 ひのくに高等支援 学校の特徴

熊本県ひのくに高等支援学校は平成13年4月開校。校舎は県産材をふんだんに使用しユニバーサルデザインをとりいれています。また、敷地内には遠隔地から通う生徒のために寄宿舎を併設しています。中学校を卒業し、日常生活を営むのに一部援助が必要な程度の知的障がい有する者を対象とした高等部単独の特別支援学校です。修業年限は3年です。



ひぎんSDGs私募債発行記念品贈呈式(2021年12月)



寄贈した図書が並ぶ図書室



寄贈した図書が並ぶ図書室



先生方から要望のあった専門性向上のための図書を寄贈(資料室)



熊本県ひのくに支援高等学校外観



熊本県ひのくに支援高等学校エントランス



体育館



講堂のステージは体育館と校庭の間に設置されています



教室

卒業後の社会自立・職業自立を目指した専門学科(作業学習)



材料取り、部品加工、組み立て、塗装などの工程による木工製品制作の実習を行う教室



キーホルダー、名刺入れなどの皮革製品制作の実習を行う教室



ワイシャツ、毛布、運動靴などのクリーニング実習を行う教室



成形、仕上げ、素焼き、絵付け、本焼きなどの工程による陶器の製作実習を行う教室



地域の交流スペース(一般社団法人合志市居住支援協議会サテライト拠点) 「みんなの居場所」を熊本県合志市に開所(2021年4月)

(一社)合志市居住支援協議会(熊本県)がサテライト拠点として熊本県合志市須恵に「みんなの居場所」をオープンしました。セミナーや交流スペースとして活用するほか、住まいや相続などの相談窓口も設置、地域の子もたちや高齢者の見守り、そして多くの世代が集える場として地域に根付いていくことを目指してまいります。



「みんなの居場所」外観(2021年4月)



椅子ヨガで地域交流(2021年4月)



室内の様子(2021年4月)

ずっと住みたくなる地域社会

放課後児童健全育成事業 合志市立楓の森小学校学童「ぞうさんクラブ」開校(2021年3月)

当社グループ会社の(株)サンコーライフサポートは、熊本県合志市に小学校学童「ぞうさんクラブ」を開校しました。「ここに帰ってくるのが楽しみ」と思ってもらえるような居心地良い環境整備を目指し、地域との連携により、日本の文化、歴史、季節感を感じ学べる機会を創出します。ぞうさんクラブでは、英会話やキッズヨガ、新聞アート、体操教室(長期休み期間)、合志マンガミュージアムより寄贈のマンガ800冊が揃うマンガ室の利用、手づくりおやつ提供など特色豊かな活動を行っています。



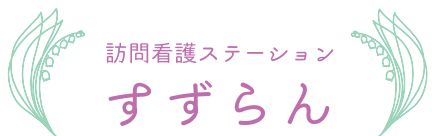
「ぞうさんクラブ」の特色ある活動 /

- 英会話
- キッズヨガ
- 新聞アート
- 体操教室(長期休み期間)
- マンガ室
- 手作りおやつ提供



訪問看護ステーション 「すずらん」を開設(熊本県合志市)(2024年3月)

当社グループ会社(株)サンコーライフサポートが、同社で運営する住宅型有料老人ホーム元気な家ひまわり内(熊本県合志市須屋)で、訪問看護ステーション「すずらん」を2024年3月に開設しました。小児から高齢者まで幅広い利用者を対象に、精神看護、急性期、老年看護・介護経験等それぞれに長く従事したスタッフが在籍し、どのような病気や疾患・障がいがある方も経験を活かしたケアでサポートします。



急性期から介護まで経験を活かしたケアを行います

- | 医療的ケア | 看取りケア |
|-------------------|------------------|
| ●全身状態の観察 | ●痛みのコントロール |
| ●基礎疾患悪化の予防的管理 | ●ご本人、ご家族の精神的サポート |
| ●床ずれの予防管理 | ●療養環境のケア |
| 日常生活の支援 | 家族ケア |
| ●清潔ケア(入浴、洗髪、着拭など) | ●療養生活における介護相談 |
| ●食事の介助 | ●精神的サポート |
| ●口腔ケア | ●関係機関との連携 |
| ●排泄の介助 | |
| ●服薬管理や指導 | |
| 緊急時対応 | リハビリテーション |
| ●状態変化時の緊急対応 | ●日常生活動作の訓練 |
| ●関係機関との初期対応 | ●福祉用具の利用相談 |

地域連携、多職種連携、看看連携を実践します！

精神疾患に特化したスタッフによる訪問看護サービス

- | 共に考える | つなぐ |
|---|--------------------------------------|
| ●お薬を飲むタイミングや管理の方法 | ●就労や社会復帰について相談に乗り必要な場合は適した機関へおつなぎします |
| ●生活のリズムを整える方法について | ●当社の特例子会社で一般就労障がい者枠あり |
| ●一緒に考えます | ●当社関連事業所にA型事業所あり |
| サポートする | 傾聴する |
| ●相談に対し、訪問看護指示書の依頼サポートはもちろん、事業者側からも主治医へ依頼します | ●本人の生きづらさ対人関係、過疎機能問題など、話の傾聴を行います |
| ●公的な制度を利用するための説明や提出書類などのサポートをします | |

認可保育園「合志たけのこ保育園」を熊本県合志市に開園(2025年4月)

当社のグループ関連法人 社会福祉法人三幸(熊本県合志市)が運営する認可保育園「合志たけのこ保育園」を2025年4月、熊本県合志市に開園しました。近年、地域の子育て環境を充実させることが求められており、当社グループ会社の(株)サンコーライフサポートを通じ、社会福祉法人三幸による保育事業参入を支援。当認可保育園開設は、社会福祉法人三幸が熊本県合志市で築き上げてきた地域との信頼関係と、当社グループが長年培ってきた快適で安全な住まいを提供するノウハウを活かしたものです。地域の子育て世代の皆様に安心してご利用いただける保育園を目指します。



合志たけのこ保育園の特色

幼老共生

関連会社が運営するサービス付き高齢者住宅「スリースマイル秋桜」が隣接しており、ここで取り組むデイサービス・食堂・教室等の場を通して地域の方と園児との交流を実現します。

英語教育

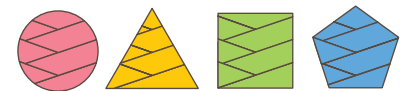
外部講師を招き、楽しみながら自然と英語を身につけます。歌やゲーム、遊びを通して、自然と英語に親しみ、発音やコミュニケーション能力を育みます。

体操教室

専門の外部講師による体操教室を実施します。様々な運動を通して基礎体力や運動能力、協調性や集中力、達成感を育み健康な身体づくりを促進します。

農園体験

園に隣接する農園で季節の野菜収穫体験を行います。土に触れ、植物の成長を間近に観察することで、自然への関心を高め、食育にも繋がります。



合志たけのこ保育園
KOSHI TAKENOKO NURSERY SCHOOL

宝石の原石に見立て輝かしい未来をたけのこの皮で表現したデザイン。様々な形や色は、園児や保護者、スタッフたちのあらゆる多様性をイメージしています。



ずっと住みたくなる地域社会

福岡県警察と福岡県宅地建物取引業協会と連携

「DV・ストーカー被害者等への住宅情報提供に関する協定」に協力(2018年)

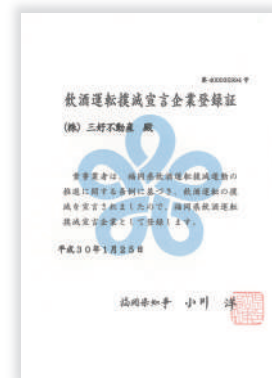
夫婦間や恋人などによるDV(ドメスティック・バイオレンス 家庭内暴力)やストーカー問題は年々事態が深刻化しています。被害者は、加害者との接触を避けるためにホテルや知人宅への一時的な避難を余儀なくされています。そのような状況にいる被害者が警察に相談し、早急な避難を希望する場合、県警が福岡県宅建協会に空き部屋を照会、同協会は居住地や家賃など希望を聞いた上で物件情報を提示します。当社はその物件情報を同協会に提供しています。



飲酒運転撲滅宣言に賛同

飲酒運転撲滅宣言に賛同(2018年～)

2018年1月より福岡県が掲げる「飲酒運転撲滅宣言企業」として登録。飲酒運転の撲滅を宣言し、その対策に取り組んでいます。



地域社会との連携

野菜マルシェ開催(天神サロン・吉塚支店・(株)ビルドヒューマニーのスペースを提供)(2017年～)

福岡の農家の皆様に応援したいと、三井郡大刀洗町、八女郡広川町、福津市と連携して、三好不動産天神サロンや吉塚支店(2022年～)のスペースをマルシェとして提供。また、グループ会社の(株)ビルドヒューマニーでも駐車場スペースを提供し、JA筑紫と連携して野菜マルシェを定期的に開催。毎回多くの地域の皆様にお越しいただいています。

天神サロンで開催している野菜マルシェ



ビルドヒューマニーの駐車場で開催している野菜マルシェ



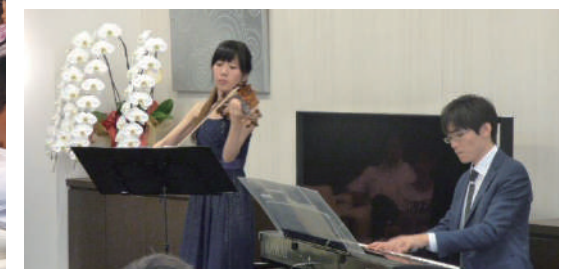
吉塚支店1階エントランスで開催している野菜マルシェ



（一財）100万人のクラシックライブに天神サロンのスペースを提供、「天神サロンクラシックコンサート」を開催(2018年～)

2018年より天神サロンで「100万人のクラシックライブ」を定期的に開催しています。100万人のクラシックライブとは、普段着で気軽に聴けるクラシックをコンセプトに、赤ちゃんからお年寄りまであらゆる人の日常に音楽の感動を届けるため、若手演奏家による小さな演奏会を全国各地で開催しているもので、年間100万人の方々の参加を目標にホテルロビーや商店街、駅ナカ、高齢者施設、学習塾、お寺、カフェなど行く先々をライブ会場に開催、当社天神サロンでも、毎回、お子様からご年配の方まで多くの方に参加いただいております。

100万人のクラシックライブ



馬頭観音夏祭りに合わせ本社駐車場で縁日を開催(～2023年)

当社本社の向かいに鎮座する馬頭観音様の夏祭りが毎年8月23、24日に開かれます。この夏祭りに合わせて、当社本社1階駐車場にお手製の「こどもゲーム会場」をつくり、地域の子どもたちを中心に、参加いただいています。今後も地元で行われる様々な行事に参加し、地域の皆様と親睦を深めてまいります。



黒門の馬頭観音様

黒田藩主御馬廻役であった梶原太夫は、自らの屋敷に馬頭観音の「祠堂」を立てました。その後、1783(天明3)年、黒田藩主から授かった馬が焼死するという事故が起き、その馬の霊を祭るために「祠堂」に参詣するようになりました。ところが、あまりに参詣する者が増えたため、町の人たちが屋敷から現在の場所に移し、御堂の世話を引き継ぎました。



ずっと住みたくなる地域社会

11 安心・安全なまちづくりのための 防犯パトロールや見守り活動に参加 (2020年1月～)

「中央区犯罪の起きにくい街づくりの総合対策(NCC:No!CrimeinChuou)」・「福岡中部法人会」に参加し、防犯パトロール等の活動を行っています。また、2020年1月よりNCCの活動の一環で、小学生など子どもたちが安全に通学できるように、通学路の見守り活動「見守り隊」に毎週参加しています。



10 11 17 福岡県北九州市企業型ふるさと納税制度を活用し 「小中一貫校 志明館」に寄付(2024年5月)

当社とグループ会社ミヨシアセットマネジメント(株)は、旧北小倉小学校(北九州市小倉北区)の跡地において2024年4月に開校した小中一貫校「志明館」の教育理念に賛同し、北九州市の企業版ふるさと納税制度を活用して寄付をしました。同校は、全国初の2・3・3・1制の子供たちの成長にあわせた教育システムを導入、8年間で義務教育の学習指導要領を終え、「自分たちで自分の将来を考える」という同校のコンセプトのもと、最後の1年は進路を考えることや、それまでの勉強をいかして自分が決めたテーマで研究をまとめるプロジェクト学習をおこない、世界をリードしていくような子供たちを育てたいとしています。



11 九大学研都市駅前店が 福岡市「子ども見守り基地局」設置に協力(2019年10月～)

福岡市と九州電力(株)が協働で開始した「IoTを活用した子ども見守りサービス(通称:オッタバイ)」に協力しています。これは、見守り端末を持った小学生が、通学路の分岐点となるポイントに設置されている見守り基地局を通ると位置情報が記録され、迷子や事件等の際に警察棟にその位置情報を提供するもので、この見守り端末の固定基地局として、九大学研都市駅前店の店内に端末が設置されています。



○見守り基地設置場所:九大学研都市駅前店
○校区:福岡市西区 西都小学校

九大学研都市駅前店に設置されている見守り基地局端末

11 安心・安全なまちづくりを目指し「南当仁小学校区 挨拶見守り隊」に参加 (グループ会社:株ビルドヒューマニー)(2019年～)

当社グループ会社(株)ビルドヒューマニーは2019年より南当仁小学校区 挨拶見守り隊に参加しています。南当仁小学校区 挨拶見守り隊は、児童が安全に登校できるよう主に南当仁小学校区の信号のない横断歩道や細い道など通学路に立って(朝7時30分から8時10分頃まで)サポートをしているボランティアの会です。2015年に4名で発足した本会は2021年には33名にまで増え、PTAからお揃いのベスト・キャップを、自治協議会からはポロシャツの寄贈をいただき、着用しています。当会のモットーは「ゆるゆるボランティア」。できる時にできる人ができる事をやりましよう、見守り隊のない日は声を掛け合って自然とお互いの配置を助け合えるほど、地域の方とも良い関係作りができています。今後も地域の方と連携して、安全・安心な街づくりに努めてまいります。



南当仁小学校の5、6年生の児童が中心となり、地域の方へお礼の気持ちを伝えたいとの発案で実施されました。代表の子ども達からのスピーチと高学年児童全員からの手書きのメッセージが贈られました。

南当仁小学校区 挨拶見守り隊の方への
お礼の会の様子(2021.7.6)

11 ふれあい文化祭in大当仁バザーに参加(2020年11月)

2020年11月3日、当仁小学校で開催された当仁校区自治協議会主催「ふれあい文化祭in大当仁」のバザーに当社も参加しました。今後も地元企業として、イベント等を通じて地域の皆様との交流を図ってまいります。

3 献血の協力 輸血が必要な患者さんが安心して輸血を受けられるよう、献血に協力しています。



当社本社3階にて受付と健康チェック(2021年6月8日)

当社本社1階駐車場に日本赤十字社の献血車が待機(2021年6月8日)

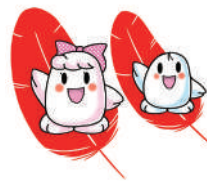
受付後、献血車にて献血(2021年6月8日)

ずっと住みたくなる地域社会



赤い羽根共同募金に協力

社会福祉法人福岡県共同募金会を通じて、赤い羽根共同募金に協力しています。



「こども&レディス110番の店」活動に協力

犯罪等に遭遇したこどもや女性が逃げ込める「こども&レディス110番の店」に賃貸営業部全店が協力しています。



AED(自動体外式除細動器)の設置

AED(自動体外式除細動器)の設置を本社エントランス等に設置及び福岡市のAEDマップへの情報も公開し、社員やお客様、地域の皆様の万が一に備えています。



三好不動産本社1階に設置しているAED



「地域のまち・絆づくり応援企業」として福岡市より感謝状を授与されました(2016年)

「地域のまち・絆づくり応援企業」として福岡市より感謝状を授与されました。これは、福岡市が2016年より開始した制度で、自治協議会、自治会・町内会などが行うまちづくりに、特に貢献する活動を行なっている企業や商店街、事業者などに感謝状を贈呈するものです。この度の感謝状授与に関しては、自治協議会の推薦によるもので、主に、当社が取り組んだ以下の地域活動が持続可能な地域コミュニティづくりに貢献したと認められたものです。



- 当社ソフトボールチームの当仁校区地域リーグ出場。
- 当仁校区夏祭りの運営。
- 当仁校区餅つき大会の運営に参加。
- 地域小中学校のトイレ清掃の実施(～2016年)
- 西日本大濠花火大会の清掃活動(～2018年)



三好不動産オリジナルのマタニティマークキーホルダーを無料配布(2018年～)

妊婦さんや赤ちゃんに寄り添った優しい環境づくりを応援したいと、当社ロゴマークの親子ゾウをあしらったマタニティマークキーホルダーを作成し当社の各拠点で無料配布しています。マタニティマークは、おなかの目立たない妊娠初期でも周囲の人に妊婦を知らせ、優しい配慮を促すものとして2006年に厚生労働省が作成したものです。マタニティマークを身につけているお母さんを見かけたら、そっと優しい思いやりをお願いします。



三好不動産オリジナル マタニティマークキーホルダー



子育て世帯応援企画 子どもの数だけ家賃減額「キッズ割」(2018年5月)

賃貸借契約をした子育て世帯に、子どもの数だけ家賃を減額する(1人当たり1,000円 ※最大3,000円)「キッズ割」を実施。「キッズ割」はお母さんのお腹に赤ちゃんがいる時から中学校卒業までが対象で、当社の子育て世帯応援企画の一環として取り組んでいます。



地域花火大会開催翌日の清掃活動に参加(～2018年)

西日本大濠花火大会や周船寺花火大会、東区花火大会など地域で開催している花火大会において、開催日翌日の清掃活動に参加しました。



当社本社周辺の花壇づくり活動

当社本社がある中央区唐人町の通り沿いの花壇づくりを行っています。花壇には、「花と緑の待ちづくりを応援しています」のメッセージとともに、花言葉も添えています。少しでも皆様の心の癒しになってもらえるよう、美しいまちづくりを目指します。



SDGs私募債「ちくぎん地域応援私募債」寄付贈呈式(2024年10月)

当社は、2024年9月27日付で株式会社筑邦銀行を引受先とするSDGs私募債「ちくぎん地域応援私募債」を発行しました。私募債発行額の一部が、株式会社筑邦銀行を通じて、南当仁公民館(福岡市中央区今川)において2024年10月27日(日)よりオープンすることも食堂「みなち食堂」へ寄付されます。その寄付寄贈式が、2024年10月21日南当仁公民館で執り行われました。みなち食堂開設を通して、子どもたちをはじめ、地域の人々がつながりあう場として、安らぎのあるまちづくりの一助となれば幸いです。



目録贈呈



2024年10月27日の寄贈式



南当仁公民館(福岡市中央区今川)

ずっと住みたくなる地域社会

LGBTの取り組み



LGBTの住まいに関するサポートを開始 (2016年～)

「本当は同性パートナーと部屋を借りたいのに1人で借りると偽ってしまった」「身分証と外見を比べて、変な顔をされないか不安」など、LGBT等の方が賃貸住宅を借り際に様々な壁がある実情を知り、その解決するための力になりたいと思い取り組みを始めました。当社は、「すべての人に快適な住環境の提供」の基本姿勢のもと、これまでも高齢者や外国人、生活保護者の方、DVで困っている方、災害時の住宅提供など様々なニーズにいちはお応えしてきました。LGBTの方の住まいに関してもその思いは変わりません。取り組み当初は、博多駅前店をLGBT対応店舗としてレインボーのステッカーを掲げておりましたが、社内勉強会など重ねていながら、2019年には全社にレインボーマークを掲示。名刺にレインボーマークの配置やレインボーバッジの着用、社内のデスクや応接室・会議室にはレインボーフラッグを設置など、LGBTフレンドリーである姿勢を社内外に示しています。



LGBTフレンドリーの姿勢を示す
レインボーバッジ



社内にレインボーフラッグを設置



九州レインボープライドに参加(2016年～)

LGBTなど性的少数者が生きやすい社会を目指す啓発イベント「九州レインボープライド」に2016年より参加しています。2019年は社員約130名がパレードに参加、また会場に賃貸・売買・生命保険・相続などの無料相談のブースを出展し、多くの方々にお立ち寄りいただきました。



九州レインボープライド2023/パレード参加の様子



九州レインボープライド2023集合写真



九州レインボープライド2024集合写真



九州レインボープライド2024ブース出店



LGBTライフプランセミナーを開催 (主催:三好不動産、後援:福岡市)(2019年～2021年)

LGBTのお部屋探しを取り組んでいく中で、「賃貸と購入の違いを知りたい」、「パートナーと不動産を購入したいけどハードルが高そう」など購入を検討したいけど、どうしたら良いかわからないといった声を多くいただくようになりました。そうした声にお応えするため、不動産を観点にしたLGBTの方対象のライフプランセミナーの1回目を2019年に開催しました。不動産購入だけに限らず、生命保険や財産分与、公正証書等手続きのポイントなどについて紹介。これまで延べ約180名の方に参加いただきました(2021年4月現在)。法律や制度における難しさもありますが、今でもできることがあることを知ることができるセミナーです。



第1回LGBTライフプランセミナー(2019.11.16)



厚生労働省ホームページ 「職場におけるダイバーシティ推進事業について」の、 多様な人材が活躍できる職場環境に関する企業の事例集 ～性的マイノリティに関する取組事例～(令和元年度)(令和2年度) (令和6年度)の企業事例集に三好不動産が紹介されました

厚生労働省が行う職場におけるダイバーシティ推進事業の「多様な人材が活躍できる職場環境に関する企業の事例集～性的マイノリティに関する取組事例～」の中で、当社のLGBTの取り組みが紹介されました。

当調査に関しまして、当社はヒアリングに協力しており、下記頁に紹介されています。

- 「多様な人勢が活躍できる職場環境に関する企業の事例集～性的マイノリティに関する取組事例～」の本文
[事例16(P26)、事例20(P28)、事例39(P36)]
- 「令和元年度 厚生労働省委託事業 職場におけるダイバーシティ推進事業報告書」
[参考資料(P199～P202)]



東京都主催「企業が取り組む人権尊重 住まいの確保の 事例から考える『誰も取り残さない』企業活動」セミナーに登壇 (2024年10月)

2024年10月31日に東京都主催「企業が取り組む人権尊重 住まいの確保の事例から考える『誰も取り残さない』企業活動」セミナーに、当社の担当者3名が登壇し、外国人の住まい探し、高齢者・障害者の住まい探し、LGBTQ+の方の住まい探しの取り組みに関して紹介しました。

東京都主催「企業が取り組む人権尊重 住まいの確保の事例から考える『誰も取り残さない』企業活動」セミナーの様子
東京都人権プラザにて(2024.10.31)



ずっと住みたくなる地域社会

「鷹祭SUMMER BOOST」への参画 地域と共に福岡を盛り上げる(2024年7月)

三好不動産は、福岡ソフトバンクホークスが開催する「鷹祭SUMMER BOOST」(2024年7月26日～8月中旬)の趣旨に賛同し、福岡地域の活性化に貢献しています。このイベントは、2023年までの「鷹の祭典」をアップデートし、みずほPayPayドーム福岡の試合会場に留まらず、街全体でホークスを応援し、地域を盛り上げることを目的としています。当社は、ホークスのオフィシャルスポンサーであるだけでなく、本社がみずほPayPayドーム福岡の最寄り駅である地下鉄唐人町駅に近く、多くのファンの目に触れる好立地に位置しています。この立地を活かし、「鷹祭SUMMER BOOST」期間中、本社壁面に特別なビジュアルを掲示し、福岡一丸となってホークスを応援する機運を高めています。野球を通じた地域コミュニティの活性化に貢献するため、当社も福岡の街と共に盛り上げてまいります。



「ホークスとうじん通りまちづくり協議会」への参画(2025年6月～)

三好不動産は、ホークスの本拠地であるみずほPayPayドーム最寄り駅「唐人町駅」に位置する福岡市中央区今川に本社を構えています。この唐人町を拠点に、地域コミュニティの振興・発展を目指す「ホークスとうじん通りまちづくり協議会」に、2025年6月から会員として参画しました。2018年7月に設立された本協議会は、「住んでよし、働いてよし、学んでよし、訪れてよし」をスローガンに、地域課題の解決と持続可能なまちづくりを目指しています。具体的には、ホークスとうじん通りガーデン事業、ホークス優勝祈願祭事業、ホークス横断幕・フラッグによる通りの賑やかし事業など、多岐にわたる活動を展開しており、交通渋滞の緩和や通りの賑わい創出を通じて、地域経済の活性化にも貢献しています。特に、唐人町商店街の活性化は協議会の重要な活動項目の一つであり、ドーム来場者の地域内回遊促進や外国人との地域交流促進を通じて、賑わいを創出することを目指しています。当社は、この協議会への参画を通じて、地域に根差した企業として、安心・安全で楽しく、そして美しい「ホークスとうじん通り」のまちづくり、特に唐人町商店街の活性化に積極的に協力してまいります。



ホークスとうじん通り

「大濠公園をよくする会」への参画(2025年10月)

当社は、豊かな自然に囲まれた県民の憩いの場である大濠公園を「安心で安全、誇れる公園」にすることを目指すボランティア団体「大濠公園をよくする会」に、2025年より参画しています。清掃活動や、公園利用者のマナー向上を呼びかける啓発活動に当社社員が定期的に参加し、地域住民の皆様とともに美化・啓発活動に励んでいます。これからも、持続可能な美しい街づくりに寄り添い続けます。



日頃の感謝の気持ちを込めて管理物件約2,000棟の清掃を実施(2020年11月)

2020年11月5日、管理させていただいている一棟ものを中心に約2,000棟の清掃を、1年目の社員から社長まで総勢389名(124チーム)で実施しました。これは、オーナー様と入居者様へ日頃の感謝の気持ちと、物件の維持管理、そして、普段管理物件に赴くことのない社員にも物件の知識を得て業務に活かすという目的で、全店休業し実施しました。この取り組みは、当社の70周年事業プロジェクトの一環で行いましたが、今後も、継続して行ってまいります。



物件の状況を確認しながら
エントランス、駐輪場・
ゴミ置き場などの
共用部の清掃を行いました。



駐輪場に違法駐輪がないか確認しながら自転車を整理。



ゴミ置き場や看板をチェックし、分別できていない等の理由で残っているゴミを回収。



日付が古いものや色褪せている掲示物を撤去し、メールBOX周辺の捨てられたチラシを回収。



※写真を撮影する際はマスクを外しておりますが、作業時は新型コロナウイルス感染予防対策でマスクをしております。



社長から
1年目の若手社員まで
124チームで
清掃を行いました。

物件の
良いところが
たくさん
見つかりました!



営業部も事務も、
部署関係なく
参加しました!

北九州や久留米など
県内全域の
管理物件も
行きました。



ずっと住みたくなる地域社会

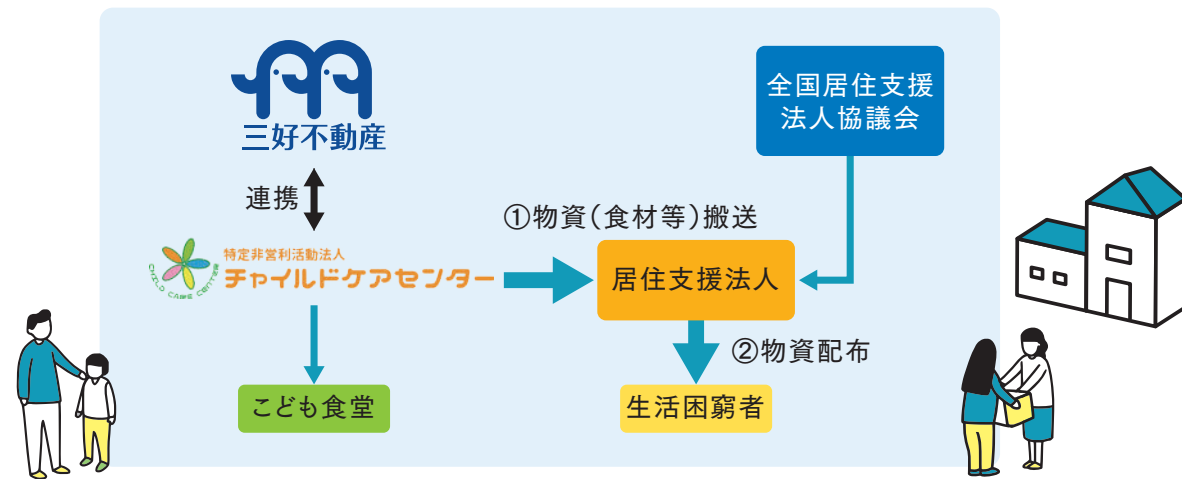


介護賃貸住宅NPOセンターによる困窮世帯への食品提供スタート「食品アクセス確保緊急支援事業」への参画（2025年5月～）

2025年5月から、（一社）全国居住支援法人協議会（全居協〈三好不動産代表の三好修が共同代表を務める〉）とふくおか筑紫フードバンク運営委員会が共同で、九州地区の生活困窮世帯への食品提供支援を開始しました。この活動は、農林水産省「食品アクセス確保緊急支援事業」に選定されたもので、提供される食品は、賞味期限内で食品としての利用が問題なくても、包装容器の破損や汚れなどといった理由から販売できなくなったものを活用します。これにより食品ロスの削減と生活困窮者の支援を両立が図られ、全居協が調整窓口を担うなど、三好不動産も深く関わっています。この事業では、福岡県で長年こども支援を行っている（特非）チャイルドケアセンターが、三好不動産と業務連携契約を締結し、企業からの物資受入れから管理、居住支援法人への搬送までを担当しています。具体的には、24の居住支援法人を通じて食品が届けられ一部はこども食堂などにも活用されます。こうした連携のもと、三好不動産の関連法人であり居住支援法人でもある（特非）介護賃貸住宅NPOセンターが当センターの支援者へ、食品提供支援からの食品をお渡ししています。この取り組みは、食品ロスの削減と生活困窮者支援という重要な社会課題の解決を目指すものです。



NPOセンターの支援者へ食品の提供



■一般社団法人全国居住支援法人協議会（全居協）の主な活動内容

全居協は、住宅セーフティネット法（住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律）の改正、施行にともない、賃貸住宅に関わる企業・団体や生活支援に関わる組織、団体などが居住支援法人として、住宅確保を必要とする多様なニーズにきめ細い支援を提供できるようにすることを目的に活動しています。現在、全国で居住支援法人を対象とした研修の実施や、各省庁の居住に関する情報、居住支援法人事業の紹介といった情報提供、各種相談、政府への提言などを行っています。生活相談サービス「くらしの相談ダイヤル」などを運営する一般社団法人くらしサポート・ウィズが事務局業務を受託しています。



三好不動産グループの農地所有適格法人「株式会社アグリウィッシュジャパン」（2026年6月設立）による耕作放棄地の再生と「ベリーズパーク名子」の運営

地域の高齢化や農業の担い手不足に伴う耕作放棄地の増加という社会的課題に向き合うため、農地所有適格法人「株式会社アグリウィッシュジャパン」（2026年6月設立）を立ち上げました。同社が手掛けるブルーベリー農園「ベリーズパーク名子」（福岡市東区名子）は、約1,800坪の耕作放棄地を約3ヶ月かけて整備し、再生させたものです。本農園では、農業未経験者でも持続可能な営農体制を構築するため、特殊な培地（アクアフォーム）を用いた約850個のポット栽培や、液肥コントローラーによる自動散布といった最先端の「スマート農業」を導入し、2027年夏のグランドオープンに向けて効率的な栽培管理を行っています。また、障害者雇用の創出や近隣の園児・地域住民を招いた交流・食育の場として活用を進めています。さらに、園内には日本ミツバチの巣箱を設置し、地元福岡のNPO法人博多ミツバチプロジェクトと連携して独自の「たれ蜜方式」でじっくり過した国産ハチミツの採取・生産に取り組むなど、循環型社会の実現を目指しています。



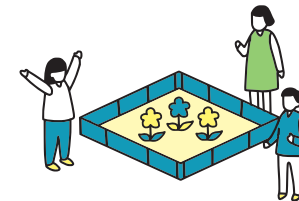
株式会社アグリウィッシュジャパン 代表取締役 村田弥教



ハチミツがぎゅっ詰まった巣箱



ベリーズパーク名子に設置している日本ミツバチの巣箱



2026年6月の農園の様子



約850個のポットが並ぶ農園の様子



次の世代に遺したい世界

国際社会への取り組み

矢野孝介メモリアル



CMCポップイ三好小学校を建立 (カンボジアバタンバン州)(2017年)

2017年11月、当社と協力会社のニッポンインシュア(株)は「一般社団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)」主導のもと、カンボジアバタンバン州の郊外ポップイ村に「CMCポップイ三好小学校」を建立しました。これは、三好不動産グループが2007年から協力している「カンボジア地雷撤去キャンペーン」の一環で、地雷原跡地の老朽化した小学校の建て替えを支援したものです。また、本小学校の建立については、ニッポンインシュア(株)の前社長で三好不動産グループの発展に寄与した、



「MIYOSHI」とネームの入った制服

故矢野孝介のメモリアルとして、社会貢献活動に積極的に取り組んでいた故人の意志を尊重し、その業績の一部を建立資金としても支援しております。小学校の門柱には「KOSUKE YANO MEMORIAL」と刻まれており、子どもたちを見守っています。また、2018年からCMCが主催する現地スタディツアーに三好不動産グループの社員も参加しています。

2017年11月3日 竣工記念式典が行われました



式典でお礼の歌を披露する生徒たち



中央は州副知事

2017年11月3日、現地で竣工記念式典が行われ盛大な歓迎を受けました。式典にはカンボジアバタンバン州副知事や教育長他来賓も多数出席。副知事より「国家建設功労第一勲章」の授与がありました。



鉄棒を寄贈(2019年)



CMCポップイ三好小学校



スタディツアーに参加した社員と現地の子どもたち(2019年)



シーソーを寄贈(2019年)



ブランコを寄贈(2019年)



カンボジア地雷撤去活動への 寄付(2007年～)

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン主催「地雷被害者救済チャリティー野球観戦」に毎年参加、観戦チケット代金の一部を地雷撤去活動及び地雷被害者の支援に役立てていただいています。



CMC代表大谷賢二様へ寄付金をお渡ししました



カンボジアの小学校校舎復旧工事への寄付(2020年7月)

2020年7月2日、CMC代表大谷賢二様へカンボジアにある「CMCポップイ三好小学校」の復旧工事の寄付金をお渡ししました。5月初旬に突然の竜巻により校舎の瓦屋根が飛ばされ、大きく穴が開き、看板とポールが折れる等の災害に見舞われました。ちょうど日本と同じように、カンボジアでもコロナ禍で学校が休みだったため、児童に怪我はありませんでしたが、学校の授業を再開するにあたり、校舎の復旧が必要となり、今回の寄付に至りました。募金は当社とグループ会社社員からの寄付によるものです。当社はこれからもCMCポップイ三好小学校の支援活動を継続してまいります。



CMC代表大谷賢二様へ寄付金をお渡ししました(2020年7月)



フィリピンの子どもたちに服を 贈るプロジェクトに賛同(2019年～2020年)

NPO法人国際教育推進協議会が主導となって取り組む「フィリピンの子供たちに服を贈るプロジェクト」に2019年より賛同しています。これは、企業・NPO・教育機関の共同プロジェクトで、衣類を必要とするフィリピンの子供たちに、不要になった子供服を贈るリユース活動です。今後も積極的に支援してまいります。



次の世代に遺したい世界

16 福祉と社会 子育て支援 ウクライナ支援へ寄付目録を贈呈 (2022年5月)

2022年5月20日、当社代表の三好修が東京都内のウクライナ大使館を訪問し、駐日ウクライナ大使 セルギー・コルスンスキー氏に寄付金の目録を贈呈しました。この寄付金は、当社およびグループ会社のミヨシアセットマネジメントに加え、当社主催の社内イベント「三好不動産GOGOハイク」の募金で集まった寄付金を合わせた総額300万円の目録です。大使からは、「今回の寄付に心から感謝しています。寄付金は少額でもたくさんの支援が集まれば大きな力になります。」と言葉をいただきました。今後も当社は、その時々社会への貢献に役立てていただけるような支援を継続してまいります。



ウクライナ大使館にて

奨学金制度の支援

4 福祉と社会 子育て支援 福岡アジア留学生里親奨学金事業に賛同し支援(2014年7月～)

福岡県と福岡県国際交流センターが1999年に創設した「福岡アジア留学生里親奨学金事業」に当社は2014年より賛同し支援をしています。この事業は、里親(企業・団体・個人等)の善意の寄付で運営され、福岡県で就学しているアジア地域からの留学生を対象に、留学生の安定した生活基盤を確立することはもとより、里親と留学生が直接交流を深めて頂くことも特徴の一つです。



福岡アジア留学生里親奨学金事業2022



4 福祉と社会 子育て支援 福岡大学夜間学部商学部第二部に通う学生向け奨学金を寄付(2018年～)

福岡大学が2018年に夜間学部の商学部第二部に通う学生向けに奨学金を創設し、2019年度の新入生からを対象に、定員の8分の1にあたる入試の成績上位20人に奨学金を給付。当社は未来ある学生を応援するため、その奨学金の一部を寄付いたしました。

4 福祉と社会 子育て支援 三好不動産の学生育英支援 給付型奨学金制度「ゾウさんの贈りもの」を創設(2017年～)

将来を背負って立つ若者を支援することは、社会にとって大変重要なことです。「ゾウさんの贈りもの」は、当社が未来ある若者を応援するために2017年に立ち上げた、一人当たり月額2万円、年間24万円を給付する返済不要の給付型奨学金制度です。応募にあたっては「学校生活と私の将来像」をテーマに作文を提出していただいています。2021年においては、看護師や助産婦、社会福祉士、保健士など医療・福祉の分野を目指す学生が多く「ケガや病気で苦しんでいる人たちの支えになりたい」「一人ひとりの心に寄り添いサポートしたい」といった思いが作文に込められていました。



この1年どのような学生生活だったか、そして三期生へのはなむけの言葉を述べる二期生



三期生授与式の様子



二期生と三期生の記念撮影

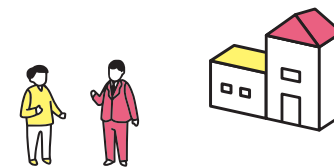
当社施設の開放やイベント等を通して、当社の社員との交流も深めていければと思っています。「困った時は相談においで」と親代わりのような支援として育ててまいります。



産学連携

4 福祉と社会 子育て支援 11 九州産業大学の学生とリノベーションで連携 (2011年～2012年)

九州産業大学工学部住居インテリア設計学科の学生とリノベーションに取り組んでいます。学生が室内のデザインを手掛け、実践的な勉強の一環として無報酬で設計を担当し、これまで10例以上を完工、若い世代の発想で部屋づくりが実現しています。



九州産業大学の学生がデザインしたリノベーション

4 福祉と社会 子育て支援 中学生の職場体験学習の受け入れ

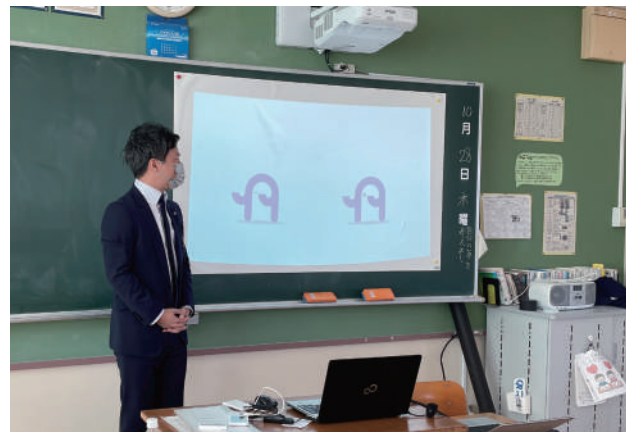
中学校や各種団体より要請を受け、子どもたちに仕事に触れる機会を提供することを目的に中学生の職場体験を受け入れています。

次の世代に遺したい世界



福岡市立筑紫丘中学校総合学習「社会人講話」に講師として参加(2021年10月)

社会人講話は、筑紫丘中学校の1学年143名が対象で、社会人の職業観や人生観にふれることで、学ぶことや将来とのつながりなど自分の生き方を探求する機会として行っているものです。授業では、「私の住みたいお部屋を選ぼう!～新社会人 初めての一人暮らし編～」をテーマに、社会人1年生の設定で、勤務先の立地やお給料、生活費はどれくらいかかるのかななどを考えながら、グループで話し合い、希望の部屋を選ぶというワークをしていただきました。この授業を通して、計画を立てる習慣を身につけることの大切さに気付くきっかけになればと思っています。



インターンシップの受け入れ(2004年～)

インターンシップの受け入れは、これからの人生設計を考える学生の方々に、就労体験の場をつくるという社会貢献活動として位置づけています。ここ数年は、外国人留学生の参加も増えています。インターンシップを受け入れることで、職場の活性化といった相乗効果もあり、新しい見識を得る機会となっています。



福岡県立城南高等学校フィールドスタディーの受け入れ(2020年12月)

2020年12月11日、現役の高校生に実際に職場体験や会社見学を経験してもらう「フィールドスタディー」の受け入れを実施しました。これはフィールドスタディーを積極的に取り組んでいる城南高等学校からの依頼で当社が協力したものです。当社は福岡に本社を置く企業として、今後も地域の高校生に自分が住んでいる地域にどのような企業があり、どのような課題と向き合っているかを学んでもらう機会を作り、将来の地元就職を促進するお手伝いをしていきたいと思っています。



オンラインインターンシップを開催(2020年8月～)

従来開催していた現場体験型インターンシップに加え、2020年8月よりオンライン型のインターンシップを新たに開始しました。例えば、賃貸営業については、これまで社員に同行するなど会社側の視点で体験していたものから、学生の皆さんがお客様の立場になって実際にオンラインでお部屋探しをする体験をしていただきました。今後は、実際の職場での体験型とオンラインの両方の形式で開催してまいります。このインターンシップを通して、学生の皆さんが描く人生のビジョンの確認や課題などを考えるきっかけになればと思います。私たちも参加する学生の皆さんとともに過ごすことで、気づきや新しい発見ができればと思っています。



筑紫女学園高校フィールドスタディーの受け入れ(2022年9月)

マイナビが運営する「地元の高校生を育てる企業訪問型学習プログラムlocus(ローカス)」を通じて企業の繋がり(サプライチェーン)やイノベーションの事例をヒントに地域や社会の課題解決を考える高校生向けの学習プログラムが実施され、2022年9月に筑紫女学園高校の学生の皆さん10名を受け入れました。プログラムは、①不動産業界を知る、②三好不動産を知る、③賃貸店舗を見学し『お部屋探し』を知る、④③を通して自身のお部屋探しを考える、⑤三好不動産が取り組んでいる居住支援活動について(LGBT・外国人・高齢者)、⑥座談会のテーマで行いました。質問も多く飛び交い、熱心な学生の皆さんの学習意欲や姿勢に触れ、有意義な時間を共有することができました。今後も学生の皆さんのお役に立てるよう積極的に受け入れていきたいと思っています。



久留米大学キャリアフィールドワークの受け入れ(2022年10月)

社会人基礎力を身につけるキャリアプラン入門、応用を通して習得した知識・考え方をもとに、社会で求められる能力を養うことを目的としたプログラム「久留米大学キャリアフィールドワーク」の受け入れを2022年10月に実施しました。今後も、学生の皆さん一人ひとりが満足するキャリアを選択できるように最善の学びの時間と空間を提供してまいります。



次の世代に遺したい世界



香港の大学生をインターンシップ受け入れ(2023年7月)

2023年7月10日、香港の大学生5名をインターンシップ生として受け入れました。今回のインターンシップ受け入れは4年ぶりとなります。インターンシップ期間は約1ヶ月間で、九州・福岡の特徴や不動産市場の動向を学ぶほか、海外の投資家への販売戦略を企画立案しながら知識を深めていきます。このインターンシップを通じて、働くイメージに加え不動産業界や社会に対する理解を深める機会となっています。



2023年7月に参加した香港の大学生5名のインターンシップ生



福岡県立修猷館高等学校新聞部の皆様が一人暮らしについて取材に来られました(2025年6月)

2025年6月23日(月)、福岡県立修猷館高校新聞部の皆様が、7月発行予定の「修猷新聞Neo」で取り上げる「一人暮らし」に関する取材のため、三好不動産 九大学研都市駅前店にお越しくださいました。

取材の経緯

修猷館高校新聞部より、「一人暮らし」をテーマにした記事作成にあたり、物件情報や一人暮らしの現状について話を聞きたいとお問い合わせをいただきました。数ある不動産会社の中から弊社を選んでいた理由として、弊社のCMをご覧になったこと、九大学研都市駅前近くに店舗があること、そして九大学研都市駅前店のウェブサイトの口コミをご覧になり「丁寧に取材に対応してくれるのでは」と感じてくださったことをお伺いし、大変光栄に感じました。

取材内容

当日は、九大学研都市駅前店店長が対応し、高校生の皆様からの多岐にわたる質問にお答えしました。具体的な取材内容は以下の通りです。

- ・大学生(九大生)の部屋選びの傾向や希望する物件、九大付近の物件の種類について
- ・間取り、広さ、確認すべき点、家賃の相場について
- ・物件を決めるまでの流れや、物件探しの開始時期、仮予約について
- ・一人暮らしで起こりうるトラブルや防犯対策について
- ・三好不動産で物件を探しに来る学生の数や、九大付近の一人暮らし用アパートの数
- ・高校生のうちに身につけておくべきスキル



活発な質疑応答が行われ、熱心にメモを取る生徒さんの姿に、私たちも改めて「一人暮らし」の奥深さや、若い世代の皆さんが抱える期待と不安に触れる貴重な機会となりました。三好不動産は、今後も未来を担う若い世代の活動を応援し、地域社会への貢献を続けてまいります。



宇美町町制施行100周年記念事業に協賛(2020年12月)

三好不動産の創業者である三好^{みよし}茂一は1949年宇美町に質店を創業しました。その2年後の1951年に同じく宇美町に株式会社三好商店を創立、1967年に株式会社三好不動産に改称をしました。三好不動産の前身は質店からの始まりで、宇美町は三好不動産とゆかりの深い町として当社の歴史とともに刻まれています。



宇美町町制施行100周年記念品
「水戸岡鋭治氏デザイン100周年ポスター」



宇美町企業版ふるさと納税を通じて、「学びの多様化学校プロジェクト」を支援(2025年10月)

当社は、福岡県宇美町が推進する「学びの多様化学校プロジェクト」に賛同し、宇美町企業版ふるさと納税を通じて寄附をいたしました。宇美町は、当社の創業者が質店を構えたゆかりの深い創業の地です。同町が取り組む、不登校の児童生徒に向けた新たな学びの場「学びの多様化学校」(2025年4月開校)の環境整備に広く活用されています。本取り組みに対し、2025年10月15日宇美町役場にて感謝状贈呈式が執り行われ、安川茂伸町長より当社副社長の三好孝一へ感謝状が授与されました。当社は今後も、地域社会の課題解決と未来を担う子どもたちの教育支援に貢献してまいります。



2025年10月15日
(左:三好不動産 代表取締役副社長 三好孝一、右:宇美町 安川茂伸町長)



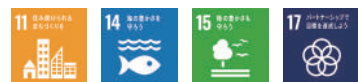
三好スマイル信託と国連UNHCR協会が不動産・金銭の「遺贈寄付」等に関する連携協定を締結。信託のしくみを活用し、不動産を含めた安心な社会貢献インフラを構築(2026年2月)

三好不動産グループの三好スマイル信託株式会社は、2026年2月特定非営利活動法人国連UNHCR協会と「遺贈寄付支援に関する連携協定」を締結しました。近年、日本国内において「自分の築いた資産を社会のために役立てたい」という寄付への関心が高まっています。しかしながら、不動産はその管理や売却手続きの複雑さから、寄付の意思があっても実現が難しいという課題がありました。本協定は、三好不動産グループが長年培ってきた不動産および信託の知見を活かし、不動産資産を世界の難民支援(シェルターや教育・生活支援など)へと繋ぐ、新しい寄付スキームを提供するものです。今後もパートナーシップを通じて、多様な資産を活用した持続可能な支援の選択肢を広げ、温かい寄付文化の醸成と国際社会への貢献に努めてまいります。



2026年2月12日ウェスレーセンター(東京都港区南青山)にて
(左:三好スマイル信託 代表取締役社長 水町圭孝、右:国連UNHCR協会 川合雅幸理事・事務局長)

次の世代に遺したい世界



- ・一般社団法人アースプロジェクト福岡を設立(2016年11月)
- ・学生中心のボランティア活動の企画及び運営開始(2021年11月～)

当社の関連法人アースプロジェクト福岡は、学生ボランティア団体「フクオカアースエイド」を運営し、自然環境保全や被災地の復旧・復興のために団体や企業と連携して、学生ボランティアの派遣活動を行っています。学生はこのボランティア活動に参加することで、この経験が、就職活動時の「学生時代に力を入れたこと」として活かすことができます。

活動実績

海の中道海浜公園 ビーチクリーン活動

福岡市ラブアース クリーンアップイベント 百道浜清掃活動

活動内容 海岸の漂流物などの
ゴミ拾い等の清掃



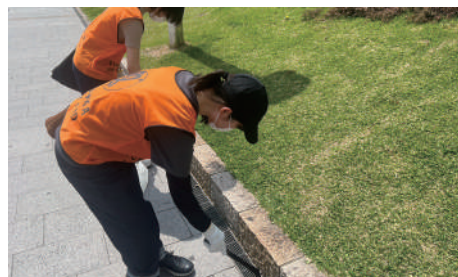
海の中道海浜公園ビーチクリーン活動



福岡市ラブアースクリーンアップイベント(百道浜清掃)

警固公園 タウンクリーン

活動内容 警固公園内の
ゴミ拾い等清掃



警固公園タウンクリーン



警固公園タウンクリーンゴミの分別作業

久留米市被災地支援 ボランティア活動

活動内容 床上浸水したお宅の
床を剥がす作業他、清掃等



床上浸水した住宅の廊下部分床剥がし作業



床上浸水した住宅の壁ボード撤去作業

佐賀県大町町 被災地復興支援 ボランティア活動

活動内容 サンマ祭りの運営補助



イベント受付補助



サンマ焼きの補助



Z世代の「夢」応援プロジェクト(2023年1月～2025年9月)

当グループでは、未来を担うZ世代のチャレンジや夢の実現を、住居の提供という基盤から後押しする独自の支援プロジェクトを、東京支店を中心に東京都内で運営・管理していたシェアアパートを活用して展開いたしました。

第1弾 WEBTOONクリエイター向けシェアアパートの運営(2023年3月～)



デジタルコミック業界大手の「株式会社ナンバーナイン」とタッグを組み、クリエイターを目指す若者を対象としたシェアアパートを東京都内で企画・運営。選抜された入居者に対し、1年間の家賃・水道光熱費を無料としたほか、漫画制作に必要な液晶ペンタブレットなどの充実した環境を無償提供し、経済的ハードルのある若者のプロデビューへの道をサポート。

第2弾 起業家・イノベーター支援 「若者応援奨学金」の提供 (2023年～2024年)

NPO法人ETIC.(エティック)が手掛ける起業家・イノベーター育成塾と連携し、塾生を対象に約400万円の奨学金を給付。さらに、ビジネスのために地方から短期上京する塾生に対して東京都内の物件を無償提供するなど、若者が東京で安心して挑戦できる環境を住まいの面から支援。

第3弾 エンターテインメント業界を 目指す若者支援 (2024年11月～2025年9月)

芸能プロダクション「ワタナベエンターテインメント」と業務提携し、オーディション受賞者等に対して、防音室や家具家電を完備した東京都内のシェアアパートを1年間家賃無料で提供。経済的負担を最小限に抑えながら、上京して芸能界で活躍する夢を追いかける若者たちを住居の面からバックアップしました。

※対象となったシェアアパートの運営・管理事業は終了しましたが、ここで培った「住まいを通じた次世代の育成・居住支援の精神」は、現在のグループの多様な社会貢献活動へと受け継がれています。

働きやすい職場環境

行政の取り組みの参画

WE Project 女性の大活躍推進福岡県会議登録(2016年～2020年) ふくおか女性活躍NEXT企業に認定(2018年～)

日本では急激な少子高齢化時代に突入し、人材の確保が重要になっています。日本そして九州の女性の社会進出は他の国と比べて大幅に遅れており、いきいきと働き続けられる社会環境の整備も十分ではありません。そのため遅れている女性人材の育成と活用がこれまで以上に求められてきています。そこで当社は、女性の活躍を推進することによって、企業の総合力の向上および地域経済の活性化を図るとともに、男女ともに働きやすく、生きやすい社会づくりに取り組んでいます。

(尚、女性の大活躍推進福岡会議は、2020年5月30日をもって、廃止となりました。)



企業主導型保育園との業務連携契約(2018年～)

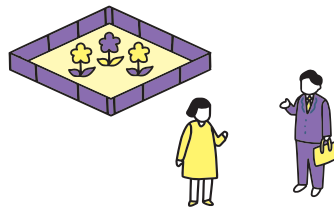
お子様がいる社員の育児支援として企業主導型保育園との業務連携契約を2018年より進めています。企業主導型保育園とは、提携を結んだ企業の従業員のお子さんを優先的に預けることができる保育施設、現在は6つの保育園と契約を結んでいます。今後も、必要に応じて、複数の企業主導型保育園と積極的に契約を締結してまいります。

Memo

企業主導型保育園は認可外保育施設に分類されるものですが、近年、英語、絵画造形、バレエ、空手などのレッスンの取り組みや、園庭を備えているなど認可保育園並みの保育内容を取り入れているところも増えています。

福岡県「出会い応援団体」に登録(2018年～)

当社は2018年より少子化の要因の一つである未婚化・晩婚化に対する取り組みとして、福岡県が実施する「出会い応援団体」に登録。結婚お祝い金の支給を受けることができます。



「#PowerNap ～昼寝で健康チャージ～」を導入(2019年～)

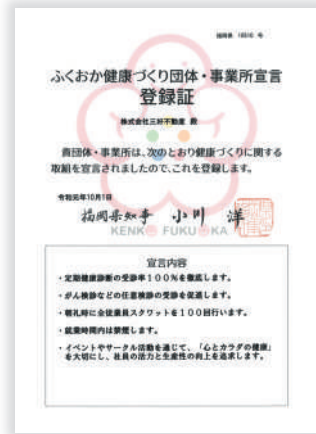
当社は働き方改革の一環として、福岡市が推進する「#PowerNap」プロジェクトを導入しました。睡眠を生活のための大切な「チャージ」と捉え、15～30分程度の昼寝(Power Nap)を推進します。睡眠をとることでパフォーマンス力を上げ、業務の効率化、社員の健康促進を図ることを目的としています。

#PowerNap

昼寝で、活力を。

「ふくおか健康づくり団体・事業所宣言」に登録(2020年～)

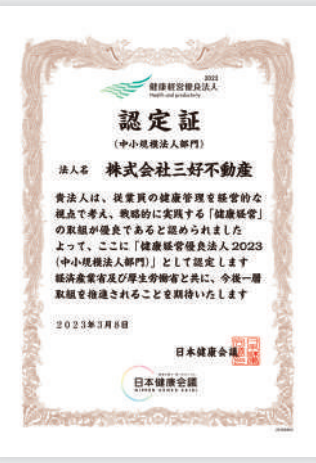
当社は、社員がやりがいと誇りを持ち、心身ともに健全であることが重要な要素と考え、健康5ヶ条を掲げ社員の健康づくりを推進することを宣言し、これを福岡県の制度「ふくおか健康づくり団体・事業所宣言」に登録しました。健康経営とは「企業が従業員の健康に配慮することによって、経営面においても大きな成果が期待できる」との基盤に立って、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践することを意味しています。従業員の健康管理者は経営者であり、その指導力の下、健康管理を組織戦略に則って展開することがこれからの企業経営にとってますます重要になっていくものと考えられます。



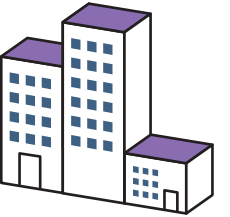
- 健康5ヶ条**
- 第1条 定期健康診断の受診率100％を徹底します。
 - 第2条 がん検診などの任意検診の受診を促進します。
 - 第3条 朝礼時に全従業員スクワットを100回行います。
 - 第4条 就業時間内は禁煙します。
 - 第5条 イベントやサークル活動を通じて、「心とカラダの健康」を大切にし、社員の活力と生産性の向上を追求します。

「健康経営優良法人」の認定を受けました(2020年～)

当社は健康経営の考えに賛同し、従業員の定期健診の実施、オプション検査の費用補助、ストレスチェックの実施、健康をテーマとした情報発信、業務時間の短縮、病気治療と仕事の両立支援、スポーツサークルの活動支援、予防接種の費用補助、就業時間内の禁煙、職場へ加湿器・除菌剤の設置など、さまざまな取り組みを行っています。これらの取り組みが認められ、経済産業省が選出する「健康経営優良法人」に認定されました。従業員およびその家族、お客様、および取引先、そして地域社会のために、従業員一人ひとりの「心とカラダの健康」を大切にし、これからも質の高いサービスを提供できるよう、取り組みを継続いたします。



働きやすい職場環境



働き方改革の取り組み



ストレス・疲労度チェックの実施(2016年1月～)

当社は毎年1回「心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)」を社員に対し実施しています。個々人のストレスへの気付きを促し、メンタル不調者の発生を未然に防ぎ、各自のストレス値を部署・部門ごとに集計・分析することで、仕事の質と量に見合った人員配置や職場環境の改善、長時間労働などを是正し、働きやすい職場づくりを目指します。

※対象は総合職社員、一般職社員、嘱託社員、契約社員、出向者(有期契約社員を除く)。



一般社員対象奨学金返還の負担軽減制度を実施(2017年～)

入社間もない新卒従業員が学生時代に給付を受けた貸与型奨学金の返還義務を遂行できないといった社会問題が表面化しています。当社はそうした現状を打破したいという想いと、「三好不動産の存立基盤は人財にあり」というスローガンに則り、学生時に奨学金の給付を受けていた比較的社歴が浅い社員に対し、返還の負担を軽減する制度を2017年10月より実施しています。

※対象は総合職社員、一般職社員、嘱託社員、契約社員、出向者(有期契約社員を除く)。

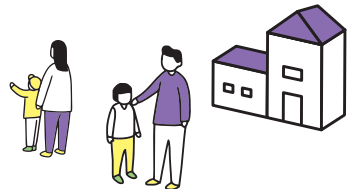
【制度の概要】

- ① 支給対象は、新卒で入社し、入社10年未満の総合職社員であること(入社10年になったタイミングで給付終了)
- ② 貸与型の奨学金であること
- ③ 支給金額は毎月の返還額の50%で、2万円が上限



子育て応援制度 第3子出産は祝い金10万円を支給(2017年～)

2017年より企業として少子化問題に取り組み、出産・育児を支援する「子育て応援制度」を設けました。これは総合職を対象に、第3子出産は10万円の祝い金を支給するものです。



インターバル制度を導入(2019年1月～)

当社は2019年1月より健康管理の一環としてインターバル制度を導入しました。インターバル制度とは、残業時間を含む終業時間から次の始業時間まで一定時間を空けるよう会社で規制することを言います(「勤務間インターバル規制」ともいう)。勤務終了後、一定時間以上の休息時間を設けることで働く人の生活時間や睡眠時間を確保するものです。これは、ワーク・ライフ・バランスを保ちながら健康に働き続けることができるようになると考えられており、当社はインターバル時間を11時間としています。今後も従業員一人ひとりが生き生きと働き続けられるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みをすすめてまいります。



育児短時間勤務制度等の拡充(2020年4月～)

当社は2020年4月より、育児短時間勤務制度などの内容を一部変更し、対象範囲を「中学校1年生の始期に達するまで」に拡充しました。これは、働きやすい職場環境づくりを目指す取り組みの一つで、子育て中の社員の柔軟で安心な働き方の実現を目指しています。

	三好不動産の規定		法律上の規定
	変更前	変更後	
1.短時間勤務制度	4年生の始期に達するまで	中学校1年生の始期に達するまで	3歳未満
2.時間外労働時間			3歳未満
3.子の看護休暇			小学校入学前



育児介護休業規程の一部変更(2020年12月～)

当社は2020年12月より、従業員が安心して育児や介護ができる環境にするため、育児介護休業規程を一部変更しました。

子の看護休暇を、半日単位から時間単位で取得することが可能

介護休暇は、半日単位から時間単位で取得することが可能



同性等パートナーに対して、配偶者と同等の社内規定・福利厚生制度の適用を拡充(2020年10月～)

2020年10月より、当社は福岡県や福岡市のパートナーシップ宣言の認定もしくは各自治体の同様の認定を受けた社員に対し、配偶者として適用範囲の拡充を行っています。これにより、同性等パートナーをもつ社員及びそのパートナーを対象とした、家族手当(社内規定)、結い婚祝金(福利厚生)、本人弔慰金(福利厚生)、家族弔慰金(福利厚生)の適用を受けることができます。当社は、今後も多様性を尊重し合い、社員一人ひとりが成長、活躍することができる働きやすい職場の環境を実現し、多様な人財が活躍できる環境整備を推進してまいります。

適用される社内規定及び福利厚生

家族手当
(社内規定)

結婚祝金
(福利厚生)

本人弔慰金
(福利厚生)

家族弔慰金
(福利厚生)



オンラインカウンセリング「マイシェルパ」を導入(2021年12月～)

近年、コロナ禍をきっかけに、働き方や生活リズムも大きく変化してきました。メンタルヘルスの不調を訴える方が社会的に増加し、悩みの種類も多岐に渡っています。そこで、従業員のモチベーションや働きがい向上へのサポートになればと、心理の専門家に悩みをオンラインでいつでも相談できる「マイシェルパ」を導入しました。日々の業務の悩みから本格的なメンタルヘルス不調についてなど相談内容は問いません。自身についての悩みだけでなく、家族や子ども、課員に関する悩みでも相談が可能です。

オンラインでできるカウンセリングサービス

マイシェルパ

マイシェルパとは

現役精神科医が運営するオンラインカウンセリングサービスで、相談はすべて臨床心理士または公認心理士が対応し、「いつでも」「どこからでも」「どのデバイスでも」気軽に様々な悩みに対してカウンセリングが受けられるものです。

働きやすい職場環境

フリーアドレスを完備したとまり木オフィス「perch(パーチ)」開設 (2021年5月～)

2021年5月フリーアドレスオフィス「天神パーチ」を開設しました。鳥たちが羽を休める“とまり木”をモチーフに、従業員が気軽に立ち寄り、好きな場所で多様な働き方ができるフリーアドレスを完備したオフィスです。天神パーチに続いて、2021年9月に香椎パーチ、2022年9月に吉塚ZEROパーチと博多パーチを、2023年5月に博多駅筑紫口店2階にパーチを開設しました。従業員に新しい働き方を提供することで、部署や部門間を超えた社内コミュニケーションの活性化や業務効率化につなげ、お客様やオーナー様へのより良いサービス提供につなげてまいります。

「perch(パーチ)」 (フリーアドレスオフィス) のメリット

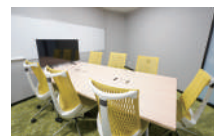
- 部署や部門間を超えた社内コミュニケーションの活性化
- 業務の効率化
- オフィス内が整理整頓されやすい

- スペースコストの削減
- 資料の電子化によるコスト削減
- テレワークとの相性が良い

吉塚ZEROパーチ



調光フィルムを備えた応接室



ミーティングルーム



フリーソファスペース

天神パーチ



半個室型ソファードesk



ボックス型ソファードesk



ミーティングソファードesk

博多パーチ



博多駅 筑紫口店2Fパーチ



香椎パーチ



出生時育児休業(2022年10月～)

2022年4月1日の育児介護休業法改正に伴い、同年10月1日より開始となる「出生時育児休業」に対応するため育児介護休業規程を改訂しました。現行法で取得できる育児介護休業制度を男性の殆どが取得していなかったり、取得しづらいといった環境を打開するものとして「出生時育児休業」が創設されました。「仕事が忙しい」「取得すると職場に迷惑をかける」など、様々な理由を少しでも緩和し取得できるようにしています。今までの育児・介護休業の場合、例えば「育児休業を取得したいが、重要な会議があるため取れない」「育児・介護休業中は就労不可のため」だったものが、出生時育児休業は、取得中であっても就労を希望する場合は就労可能となります。当社は、多様な従業員が自分らしく安心して育児に取り組める環境を整えてまいります。

出生時育児休業の概要

- 子の出生後8週間以内に4週間まで取得可能とする。
- 分割して取得することも可能とし、その回数は2回までとする。
- 原則休業の2週間前までに申し出ること取得できる。
※現行の育児休業(1ヶ月前)よりも短縮。
- 労使協定を締結し、労働者が希望した場合、事前に調整した範囲で就業することを可能とする。

結婚披露宴への出席に関する ご祝儀補助を支給 (2022年8月～)

三好不動産全ての在籍従業員に関する結婚披露宴への出席(新郎・新婦のどちらか一方でも可)が、1月～12月までの1年間で4回以上の出席に対し、4回目以降20,000円が支給されます。対象者は全従業員です。

宅建合格時のお祝い金支給 (2024年2月～)

経営計画の基本方針「不動産プロフェッショナル化」の目標の一つ「宅建取得率100%」に基づき、宅建合格者にお祝い金を支給。

■ 支給対象者

全ての合格者(※アルバイト・派遣社員を除く)

■ 支給条件

事前エントリー必要

※エントリー条件

- 週間勉強時間の報告が必要
- 各単元のテストの結果の報告が必要
- 模試結果の報告が必要



「身だしなみガイドライン」 の廃止(2024年4月～)

当社は、従業員一人ひとりがより活き活きと働ける職場環境を実現するため、2024年4月30日をもって「身だしなみガイドライン」を廃止しました。この取り組みは、個人の尊厳を尊重し、多様な働き方を促進するという企業姿勢の一環です。2009年より運用してきた身だしなみガイドラインは、お客様への「安心感」や「信頼感」を提供する上で重要な役割を果たしてきました。しかし、当社は、ガイドラインがなくとも、これまで以上にお客様へ「安心感」や「信頼感」を届けることを大切にしています。これは、社員がより自分らしくいられることがお客様への満足度向上に繋がるという考えに基づいています。三好不動産は、諸先輩方が紡いできた不動産業界のイメージ、そして当社が守ってきた信頼という看板を保ちながら、常に業界に新しい風を送り続ける古くて新しい会社を体現していくことを大切にしています。お客様の目の前にはお客様がいることを忘れずに、お客様の満足に向けて業務を行うことを通じ、これからも質の高いサービスを提供し続けてまいります。

三好不動産に身だしなみのルールはありません。
しかし「自由」にはマナーがあります。

「人に不快感を与えないように、言動や振る舞いを整えること。また、その心掛け」とあります。

1. 身なりで誤解されやすい「不自由」は、避けましょう。

2. 三好不動産が抱えている信用が失われる「不自由な結果」は、避けましょう。

3. お客様から信頼されるという責任が伴ってこそ「自由」です。

「自由」とは何かに拘束されて、「自由」を奪われるのが三好不動産の社員です。

